



from WASHINGTON, D.C.



米国連邦議会

Inside the Beltway

ワシントンDCは政治の街です。

ホワイトハウス、米国連邦議会、連邦最高裁判所のほか、財務省等の行政官庁が比較的狭いエリアに集中し、さらにこれらを取り巻くように多くの法律事務所、業界団体やシンクタンクなどが軒を連ねています。日本には「永田町の論理」という表現がありますが、当地でも、“inside the Beltway”（Beltwayというのは、ワシントンDCを囲うように走る環状高速道路の通称）という表現でこの街の特殊性に言及することが多いようです。

この政治の街で、しばしば注目を集めるのが、連邦議会の公聴会です。

連邦議会の上院・下院ともに、それぞれ外交委員会や予算委員会といった多くの委員会をもち、法案審議・行政政府のチェックといった議会の活動は実質的にこれら委員会で行われているといっても過言ではありません。そして委員会活動において重要な役割を果たすのが関係者や有識者を呼んで行う公聴会です。米国の中央銀行であ

るFRBのバーナンキ議長も、年に2回の議会への報告時を含め、公聴会で証言を行います。

公聴会で特筆すべきは何と言ってもその公開性の高さです。事前登録等の必要もなく、議員会館入り口の金属探知機さえ通れば、誰でも公聴会を傍聴できます。身分証明証の提示さえ求められません。傍聴席に座ると、本当にすぐ目の前に公聴会出席者（例えばFRB議長や財務長官）がいて、その向こうには議員が座っています。そして議員と出席者との丁々発止のやりとりを目の当たりにすることができるのです。

また、こうした公聴会の模様は、今ではインターネットを通じて世界中どこからでもリアルタイムでみることができます。英語という世界の共通語を介して、質問する方もされる方も世界中の人々から見識が問われるこの公開性の高さに、米国民主義の底力を感じます。

（日本銀行ワシントン事務所）



公聴会が開催される上院議員会館の一つ、Dirksen Building



同じく下院議員会館の一つ、Rayburn Building